

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 砂防指定地内河川 鍋屋谷川 通常砂防事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託（交付金） 一級河川 江の川水系 鍋屋谷川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 掘削・掘削のり面

ボーリング名	Bor. No. 6	調査位置	広島県三次市栗屋町	北緯	34° 47' 43.9404"
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	2022年 6月 3日 ~ 2022年 6月 7日	東経	132° 50' 0.7755"
調査業者名		主任技師		現場代理人	
孔口標高	T. P. 185.22m	角	180° 上下 90° 0°	方位	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	8.00m	地盤勾配	鉛直 90° 55°	使用機種	試験機 東邦地下工機 D1-B58 エンジン ヤンマー NFD-13
				コア確定者	
				ポンプ	YBM SP-40B

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記述	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験						試験採取番号	室原位置試験	削孔月日			
												深度-N値図		N値	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量				自沈時の貫入量		
1	184.22	1.00	シルト質砂	シルト質砂	暗褐色				新生代第四紀	表土および崩壊土に相当。0.6m付近までは土壌化が強く、植物根を混入する。以深、淡色が強まり、均質な土質となる。	06/06 1.85	0	1.15	5	3	11	20						
2	183.32	1.90	硬混じりシルト質砂	硬混じりシルト質砂	褐色	rd3			新生代第四紀	細砂〜中砂サイズの風化岩片が混じる。硬分の入り方に雑多な感があり、崩壊土とみられる。	06/07 3.70	10	1.47	50	20	50	20						
3			風化流紋岩	風化流紋岩	桃灰褐色				中生代白亜紀	2.0mまでは塊状コアをなす。以深、短柱状〜岩片状コアを主体に、断片で角礫化している。岩片は新鮮ではないが、中硬質な硬さを示す。割れ目に沿って弱く変質し、これが集中する所では軟化を認める。2.15〜2.4m間、弓状にひん岩が張り付いている。【L級・軟岩Iに相当する】		750	3.00	貫入不能	50	0							
4	181.32	3.90							中生代白亜紀				4.00	貫入不能	50	0							
5									中生代白亜紀	ごく短柱状〜岩片状コアからなる。全体に割れ目に富んでいるが、悪いなりに安定した岩盤である。全体に弱い岩劣風化を伴い、くすんだ色を示す。			5.00	貫入不能	50	0							
6									中生代白亜紀	岩片は中硬質で、上盤境界付近の30〜40cm間が少し軟化しているように感じられる。割れ目の周辺は砕片化していることが多く、割れ目の面は例外なく強く酸化変色している。【L級・軟岩Iに相当する】			6.00	貫入不能	50	0							
7									中生代白亜紀				7.00	貫入不能	50	0							
8	177.22	8.00							中生代白亜紀				8.00	貫入不能	50	0							